

2023年9月19日

核兵器禁止条約の署名・批准を

国に求める請願への賛成討論

甲府市議会本会議 山田発言

●核兵器禁止条約の署名・批准を国に求めることは、当然であり、特に核兵器廃絶平和都市宣言の甲府市としての責任でもあります。

●この甲府市議会での発言をお聞きください。

『『のどもと過ぎれば熱さ忘れる』と申しますが、・・・愛する日本に再び恐るべき軍国主義の危険な影が忍び寄り、それは日ごとに大きくなろうとしております。

それは自衛隊の増強であり、日米合同演習の強化であり、有事立法や国防教育の必要性の声であります。教科書検定の強化による計画もあり、平和憲法の改悪の動きであります。

そればかりではありません。国の基本方針である非核三原則があるにもかかわらず、日本はアメリカの核基地にされようとしております。核戦争の時代といわれる今日、日本が一たん戦争に巻き込まれると広島、長崎の何十倍、何百倍もの悲惨な結果をこうむることは火を見るより明らかであります。

日本国民はもとより、全世界の人々さえも絶滅の危機にさらされているのであります。武力で国を守るという単純な考えは、いまこそ批判すべきであります。

私どもがいますぐなさねばならないのは、すべての戦争の否定と核兵器の廃絶であります。

●これは、私の発言ではありません。

同じ甲府市6月議会ですが、今から41年前の発言です。1982年（昭和57年）6月本会議で『核兵器廃絶平和都市宣言』が採択されました。このとき、いわば全会派の賛同を代表して、当時の社会党の中込孝文議員が、本会議場で発言した内容です。

●この発言のその翌日、**当時の河口市長**が宣言にむけ、

「持たず、つくりず、持ち込まず」の非核3原則の完全実施を願い、すべての国の核兵器の全面廃絶と軍縮を求め、人類の共通の願いである永遠の平和と、核兵器廃絶の世論を喚起するため、ここに核兵器廃絶平和都市を宣言するものであります。」

こうして市議会の満場一致で平和都市宣言が採択したのです

この甲府市の平和都市宣言の特徴は3つあります

●1 つは、**甲府市の宣言は**、多くの他都市の宣言のように単なる一般的な「平和都市宣言」でも、「非核都市宣言」でもありません。

核兵器廃絶の**廃絶**を明確に掲げた「核兵器**廃絶**平和都市宣言」なのです。

甲府市議会として、当時としても危ない世界的状況や国の政治動向をうけとめ、国内の「非核三原則の完全実施を願い、すべての国の核兵器の全面廃絶と軍備縮小」主張した宣言なのです。

●2 つめの**甲府市宣言の特徴**については、議会の満場一致の決意を示したことです。

これは市長当局からの議案に賛同するというだけでなく、この時の6月議会の前の3月議会では、すでに「通常兵器の軍縮」も含めて、『**核兵器全面撤廃と軍縮の推進**』に関する**意見書**を採択し、国に提出しています。ここでも満場一致でした。この意見書の内容が甲府市の宣言になったといえます。

また、この意見書では、「国連を中心として各国とも協力し、核兵器の全面廃絶と軍縮を目指し、国際連帯の**反核兵器世論**の喚起に努力すること」

として国に、市議会の意見を突き付けたのです。

41年前の議会の決意と、今日の請願の願いとは、一致し重なっています。まさに願意妥当であり、満場一致とすべきではありませんか！

●3 つめの**特徴は**、41年前の当時の平和都市宣言としては、甲府市は極めて先進的・先駆的でした。

現在では354の自治体が宣言していますが、1982年以前の平和都市宣言は私の知る限りありません。

被爆都市の広島市でも甲府市の3年後の1985年でした。甲府市よりわずかに先なのは甲府市より何カ月か何週間か先の武蔵野市・名護市や川崎市などぐらいでした。

つまり甲府市は、山梨県だけでなく、全国の自治体を核兵器廃絶と平和にむけ、け

ん引したのです。

これは、福祉である65歳からの老人医療費助成制度でも全国的な先駆けであり、部分的にはこれが国の制度にも押し上げた事実をご存知だと思います。

●この場合、「**国の動向を見て**」と、様々にこの間の市当局の議会答弁に多くあります。「動向に乗っかる」だけではなく自治体でも、自治体議会でもありません。

核兵器禁止条約に、署名国 92 か国、批准国 68 か国になりながら、日本政府の「**消極的な動向**」あるなら、まず議会、議員の決意を甲府市として示し、「**積極的な動向**」に求めるべきです。

すでに4割の自治体が国に意見書を出しています。

●この請願は、今、問われています。

「高度の政治判断だから、それは国に任せて自治体がすべきではない」とか、「環境を整えるまで待っていきましょう」ということではないはずです。今と、問われています。先輩たちにまなび、満場一致で甲府市議会の意志を示していこういではありませんか！

以上

参考

昭和57年6月甲府市議会定例会本会議

昭和57年7月1日（木）午後1時

核兵器廃絶平和都市宣言

戦争の惨禍を防止し、恒久平和と安全を実現することは人類共通の念願である。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、核戦争の回避を求め、被爆の恐しさ、被爆者の苦しみを声を大にして全世界に訴え続けてきた。しかしながら、核軍備の拡大は依然として続いており、人類が平和のうちに生存する権利を根本から脅かしている。人類の永遠の平和を希求し、核兵器廃絶の世論を喚起するため、ここに「核兵器廃絶平和都市」となることを宣言する。

昭和57年7月2日

甲 府 市